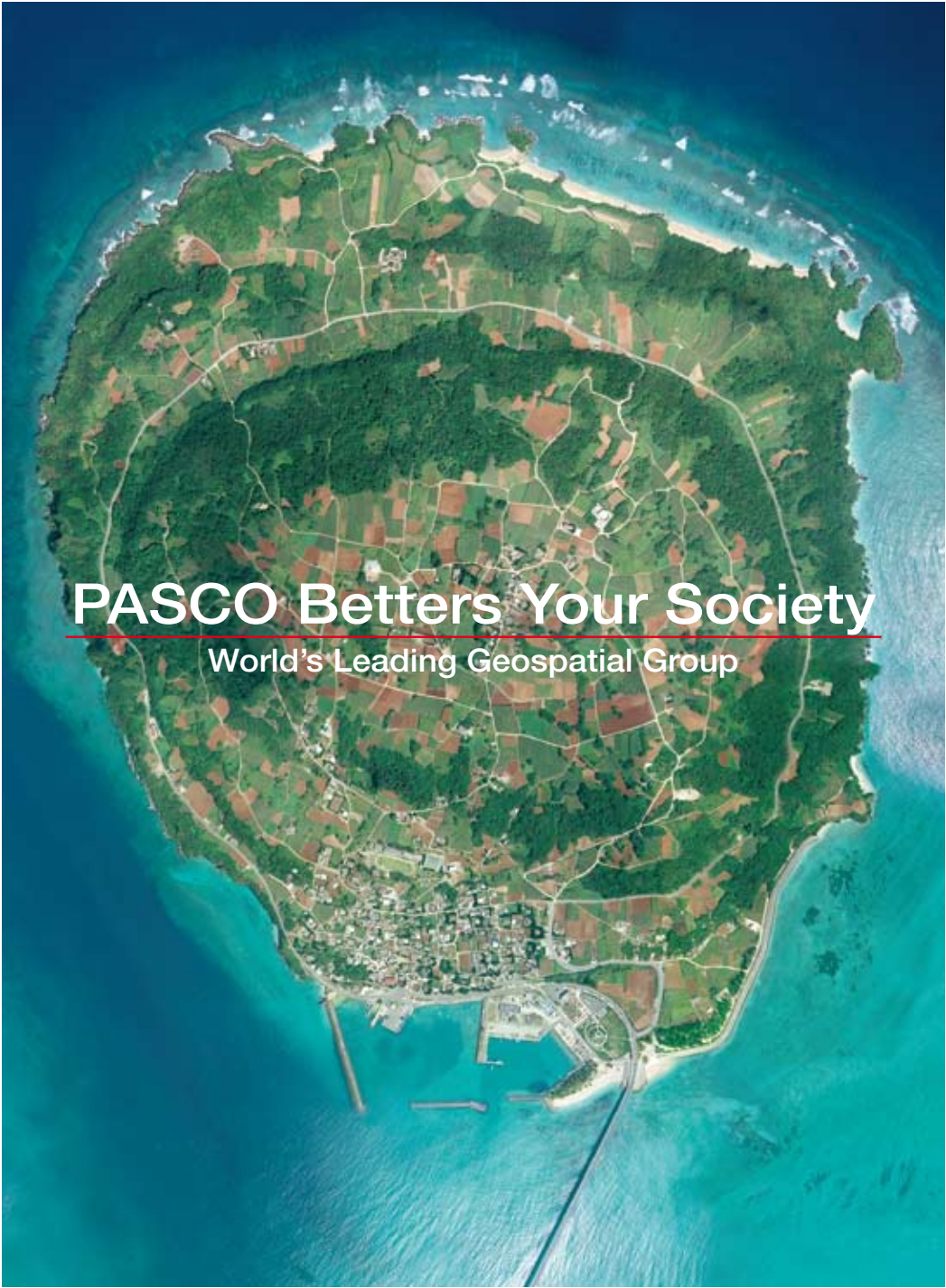


第64期 中間

株主通信

2011.4.1～9.30



PASCO Better Your Society
World's Leading Geospatial Group

株主の皆様へ



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
パスコグループの第64期第2四半期（2011年4月1日から2011年9月30日まで）は、グループ全体の経営合理化による利益体質への変革、海外事業並びに衛星事業の伸長により、売上・利益ともに前期を上回ることができました。今後も世界をリードする地理空間情報事業者として、国内外へネットワークを広げ、常に一步先を見据えた事業戦略を構築し、社業の拡大に向け社員一同一層の尽力をしてまいります。
ここに、当期の事業概要と、今後の展望をご報告申し上げます。

代表取締役社長 杉本 陽一

決算の状況

当累計期間（当第2四半期連結累計期間：2011年4月1日から同年9月30日）の国内部門における受注高は、民間部門や衛星事業の受注が順調に推移し、また、前期にグループ入りした連結子会社の寄与もあり、前年同期比14.6%増の27,696百万円、売上高は13.2%増の19,086百万円、受注残高は21,532百万円となりました。

海外部門における受注高は、アフリカ諸国などのJICAプロジェクトの受注などがありましたが、29.6%減の1,976百万円、売上高は、前年度に受注した三カ年にわたる大型プロジェクトの生産が進捗したことから107.3%増の3,069百万円、受注残高は5,291

百万円となりました。

全体の受注高は、前年同期比10.0%増の29,672百万円、売上高は20.8%増の22,155百万円、受注残高は6.0%増の26,823百万円となりました。

利益面につきましては、売上高の伸張や利益率の改善により、営業損益は1,129百万円の利益（前年同期943百万円の利益）、経常損益は848百万円の利益（前年同期645百万円の利益）、四半期純損益は334百万円の純利益（前年同期311百万円の純利益）となりました。

パスコグループの社会的使命

私たちは地理空間情報事業者として、自然災害が

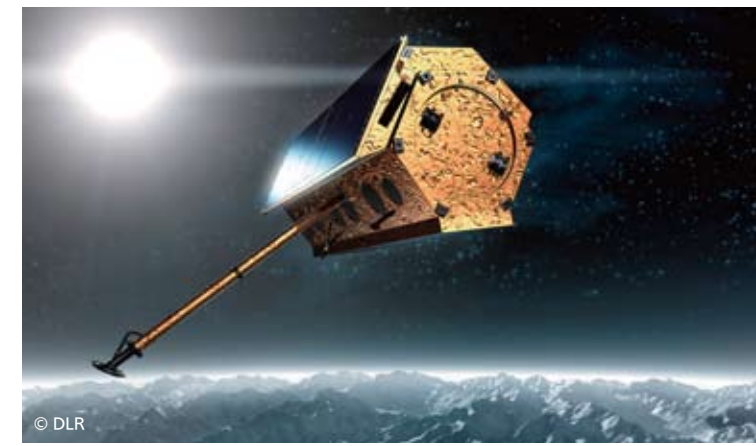
地理空間情報の処理・解析能力	・差分抽出技術 ・エリア解析・移動体（位置情報）解析技術 ・画像処理・可視化技術 ・GIS（地理情報システム）技術 ・地理空間情報技術者：1,685名（国内：1,313名、海外：372名）
地理空間情報の収集能力	・取り扱い人工衛星・データ → 14機 ・航空測量用航空機 → 42機 ・航空測量用機材 → 53台 ・計測用専用車両 → 18台 ・水域計測機材 → 36台
国内外のネットワーク	・国内47都道府県に配置した営業拠点 ・国内8ヵ所、海外2ヵ所の生産拠点 ・欧州・アジア・南米・北米に7ヵ所の事業拠点

パスコグループのコア・コンピタンス

起きた際には国内外を問わず、被災状況をどこよりも早く収集・提供し、迅速な復旧・復興に寄与するとともに、世界の人々の安心と安全な社会の構築を支援することを社会的使命と考えております。

これまでも私たちは、時間帯や天候に影響を受けず地上の撮影が可能な合成開口レーダ衛星「^{テラサー・エックス}TerraSAR-X」を中心に、計14機の人工衛星を駆使し、その社会的使命を果たしてまいりました。今般、タイで発生した洪水被害の状況把握にも複数の人工衛星を活用し、浸水エリアの抽出に尽力しております。

また、パスコはこのたび、世界最高レベルの超高解像度を持つ光学衛星「^{プレアデス}PLEIADES」（2011年12月打ち上げ予定）との直接送受信が可能な権利を取得



合成開口レーダ衛星「TerraSAR-X」

しました。本衛星が誇る高い解像度や衛星と直接送受信できる利点をいかし、今後も世界中で発生する自然災害において迅速・的確な災害状況の把握と情報の提供に努めるとともに、当社の衛星事業の発展に尽力してまいります。

株主の皆様へ

私たちは、「地理空間情報事業を通じて、安心で豊かな社会システムの構築に貢献する」という経営理念をグループ全体で共有し、日本で培った世界最高の技術力を世界中の人々に提供するため、コア・コンピタンスを確実に伸展させ、パスコグループの社会的使命を果たすとともに、社業の拡大に尽力する所存です。

株主の皆様には、引き続き、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

衛星事業

世界の宇宙産業の一翼を担う
災害や環境モニタリングから、
新たな衛星活用に向けて

2004年12月26日、インドネシア・スマトラ島北部の大地震により発生した津波は、インド洋沿岸の広範囲で観測され、各地に大きな被害をもたらしました。この大災害を機に、パスコは短時間に広範囲の地形情報を取得して被災状況を迅速に把握する重要性を認識し、以来、人工衛星を活用した地理空間情報の収集能力の向上に努めてまいりました。

現在では、地球を周回する14機の地球観測衛星やデータ、パスコが保有する2カ所の衛星受信局をフルに活用し、世界中の災害・環境モニタリングを行っております。

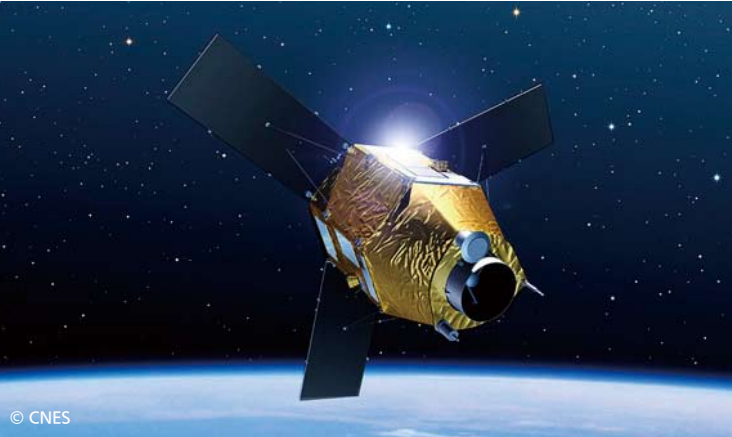
そしてこのほど、新たに最新鋭の超高解像度光学衛星「PLEIADES」(フランス)との直接送受信契約を締結し、パスコグループは地理空間情報の収集能力をますます高めております。また、「ASNAROプロジェクト」に採用された「可搬統合型小型地上システム」の完成を間近に控え、パスコの衛星事業はさらに新たな展開を迎えております。

パスコの衛星事業の変遷	
2005年度	衛星事業の開始を発表 合成開口レーダ衛星「TerraSAR-X」撮影データの日本国内への独占販売権と全世界への販売権を取得
2007年度	「TerraSAR-X」打ち上げ成功 沖縄県糸満市に衛星受信局、運用を開始 人工衛星による国内外の自然災害・環境モニタリングを開始
2009年度	【ASNARO】パスコ：「可搬統合型小型地上システム」の開発に着手 【ASNARO】パスコ：宇宙産業ミッション団、宇宙産業発展のため、産官共同でアフリカへ
2010年度	合成開口レーダ衛星「TanDEM-X」打ち上げ成功 【ASNARO】パスコ：宇宙産業ミッション団、産官共同で南米・アジアへ 【JAXA】国産陸域観測衛星ALOS「だいち」の後後期運用・データ販売を受託
2011年度	北海道千歳市に衛星受信局、運用を開始 超高解像度光学衛星「PLEIADES」との直接送受信の権利を取得

超高解像度光学衛星
「PLEIADES」との
直接送受信の権利を取得

フランスのAstrium GEO Information Servicesが運用する、世界最高レベルの地上解像度（50cmカラー）を備える最新鋭の超高解像度光学衛星「PLEIADES」。パスコは、本衛星の日本国内におけるダイレクトタスキング（衛星に対して直接、撮影指示を出し、撮影データを受信すること）並びにデータ販売の権利を新たに取得いたしました。

「PLEIADES」は、今年12月に1号機の打ち上げが予定され、その後1年以内に2号機の打ち上げが計画されております。パスコは、すでにダイレクトタスキングの権利を保有している合成開口レーダ衛星「TerraSAR-X」



の活用とあわせ、今後も、防災や環境分野を中心として、人工衛星データの迅速な取得と提供に努めてまいります。

※ アストリウム Astrium GEO Information Services：宇宙事業を主管とするEADS Astrium社（フランス）において、衛星運用・リモートセンシングなどの利用サービスを提供する部門。エアバス事業を中核とした航空宇宙事業を展開するヨーロッパの航空宇宙産業最大手EADSグループに属する。

地球観測衛星のオペレーション事業へ

日本政府が推進する先進的宇宙システム「ASNAROプロジェクト」の開発において、パスコは地上側の受信機能、撮影成果の利活用分野の研究開発を担当し、2012年度末の完成を目指しております。

「ASNAROプロジェクト」は日本独自の衛星インフラシステムとして、アフリカ、南米、アジアの開発途上国や新興国での事業化を進めており、日本国内においては、2012年度末までに純国産小型衛星の第一号機の打ち上げが計画されております。



パスコは、JAXA（独立行政法人 宇宙航空研究開発機構）での実績と本プロジェクトにおける研究開発の成果をもとに、衛星事業の新たな展開として国産衛星オペレーション事業への参入を目指しております。

※ ASNAROプロジェクト：経済産業省を中心に2008年にスタートした、「高性能、低コスト、短期開発」を実現する日本版人工衛星システムの研究開発プロジェクト

地球規模で地理空間情報事業を展開

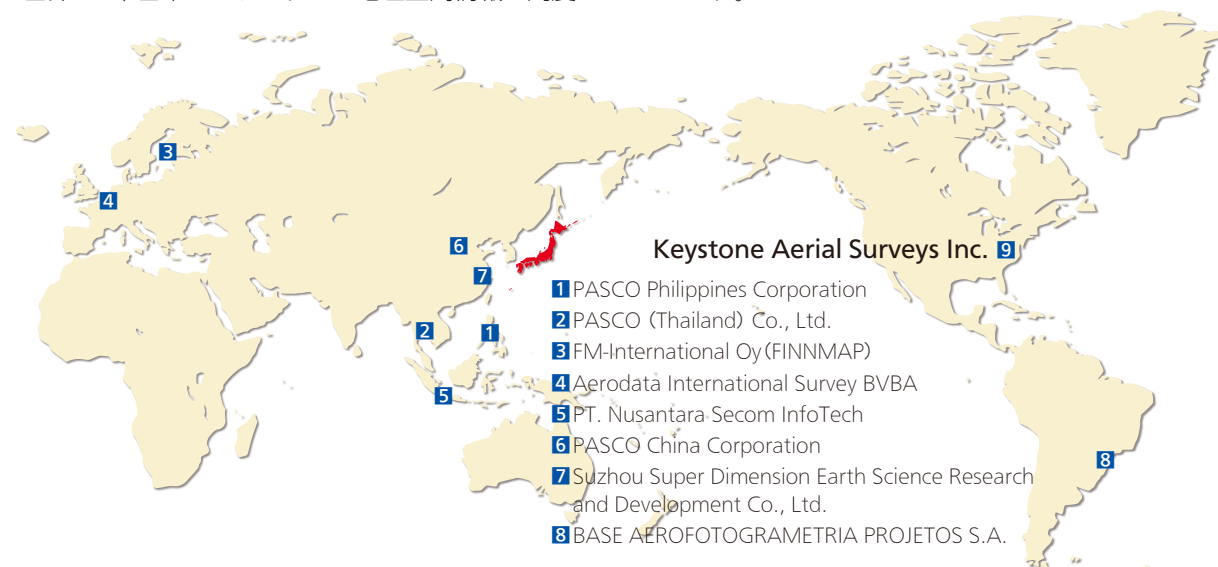
世界市場における国土基盤データの整備、森林保全から、民間活用へ

世界中の人々の安心で快適な社会の構築を地理空間情報の活用をもって目指すパスコは、これまでも世界市場を見据えてフィンランド、ベルギー、ブラジル、タイ、フィリピン、インドネシア、中国などに事業拠点を次々と整備してまいりました。今日では、こうしたグループ企業が保有する機材や高度な技術をグループ全体で共有することによって、世界市場における競争力をますます高めております。

世界には、日本のようにすでに地理空間情報を高度に

利用している国から、国家の発展に必要な国土基盤データが未整備な国、また地球温暖化の抑制に有効な森林資源を抱える国があり、多種多様な地理空間情報の活用ニーズが存在しております。

パスコグループは、こうしたニーズに応えるため、世界中で事業拠点の拡充を図り、航空機や人工衛星を活用した地理空間情報の収集技術に独自の加工・処理技術を加えて、世界中で地理空間情報事業を展開してまいります。



Keystone Aerial Surveys Inc. (アメリカ) がグループ入り

パスコは、今年10月にアメリカのKeystone Aerial Surveys Inc. (略称: Keystone 社) をグループに迎えました。

Keystone社は18機の測量用航空機を保有し、ペンシルバニア州フィラデルフィア(本社)、テキサス州タイラー、アリゾナ州ベンソン、カリフォルニア州ロサンゼルス⁹の4カ所に拠点をもち、北米大陸を中心に事業を展開しております。同社は、アメリカ、カナダ、メキシコ、プエルトリコ、ハイチ、ドミニカ、ベネズエラ、ホンジュラスおよびグリーンランドなどで事業実績をあげ、アメリカ農務省や地質調査所をはじめとした公的機関から民間企業に至る顧客基盤を有しております。

パスコグループは、北米・中米市場における事業拠点

を新たに配備することにより、さらなる海外事業の拡大に努めております。



本社 米国ペンシルバニア州
フィラデルフィア
拠点 アリゾナ州・テキサス州・
カリフォルニア州
売上 USD14,034,748
(2010年度実績)



地球温暖化抑制に向け森林保全プロジェクトが始動

地球温暖化対策では、森林資源の減少や劣化を抑制し、温室効果ガスの排出量を削減することが重要とされております。こうした地球規模の課題に対して、パスコグループは地理空間情報を活用した取り組みを開始しております。その一環として今年、アフリカ中西部のガーナ国、東アフリカ中央部のケニア国の森林保全を目的としたプロジェクトが始動いたしました。



本プロジェクトでは、ガーナ国の森林17,000km²、ケニア国の森林8,000km²を対象に、土地利用・被覆図の作製や、森林の基礎データの取得、サンプルエリアの森林バイオマス測定のためのデータ解析などを実施しております。

パスコグループは、地図作製の分野だけではなく、森林・環境保全の分野においてもグループの技術と経験をいかし、森林資源保有国に対して森林関連事業を持続可能なビジネスモデルとして提案するなど、事業の拡大を目指しております。

公共部門

最新の車両搭載計測装置 MMSの本格稼働により道路関連事業を拡大



全国10拠点に配備を完了したMMS(モービルマッピングシステム)が日本全国で稼働中です。東日本大震災においても、被災地域の道路が通行可能になった4月から、道路周辺の三次元計測を開始いたしました。この計測成果は、被害状況の把握と復興地図作製に活用されております。さらに、MMSで計測し蓄積した道路周辺情報のデー

タベースは、全国の直轄国道全域を網羅するまでになり、現在も道路情報の収集を続け整備エリアを拡大しております。パスコは、今後もMMSの稼働をさらに加速し、日本国内の道路関連事業の拡大を目指すとともに、海外においても新たな測量技術として市場開拓を図ってまいります。

地方公共団体向けにGISクラウドサービスの提供を開始

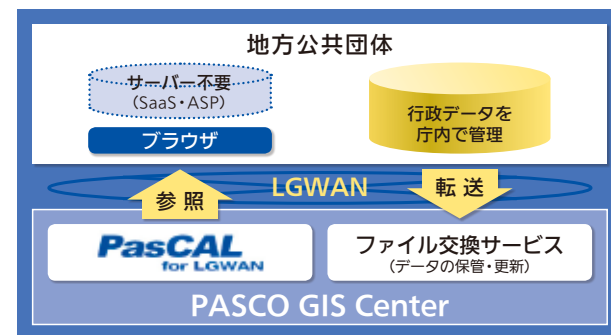
パスコは今年10月より、地方公共団体、中央省庁、そして限られた企業だけが接続できる広域行政情報ネットワーク(LGWAN)を利用した、地方公共団体向けGIS(地理情報システム)クラウドサービスの提供を開始いたしました。

パスコが提供する、固定資産や地下埋設物管理などの行政業務支援システム「PasCAL for LGWAN」は、ソフ

トウェアと地図情報をネットワーク経由で提供するため、導入・運用コストの削減が可能であり、さらに災害発生時の危機管理にも効果を発揮いたします。土地・建物などの固定資産情報や、上下水道管等のインフラ施設の位置情報などをパスコのデータセンターに保管していただくことで、万が一、庁舎が被災し、こうしたデータ類が消滅した場合でも、LGWANのネットワークを経由して、パスコのデータセンターにあるソフトウェアと地図情報が利用できます。

このように、自然災害からの復旧・復興を進める上で不可欠な行政業務情報を、あらかじめクラウドサービス上におくことで平時、緊急時を問わない迅速な行政業務対応を可能にいたします。

パスコは、「PasCAL for LGWAN」の提供により、信頼性と安全性を確保しながら、行政業務の支援事業の拡大を図ってまいります。



民間部門

高まる防災意識と期待される地理空間情報

未曾有の災害となった東日本大震災。民間企業においても、従来の事業継続計画(BCP)の見直しが図られるなど、防災意識は今まで以上に高まり、パスコが提供する地理空間情報の利用にも注目が集まっております。

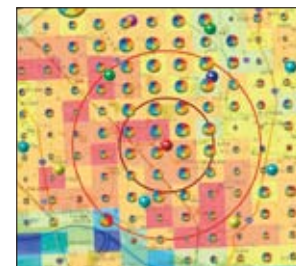
パスコは、事業所の地震・津波リスク評価、徒歩帰宅に備えた帰路地図作製、そして初動体制の確立を支援す

るサービス「対策本部」を提供しております。

パスコが持つ地理空間情報の収集、処理・解析技術を駆使し、今後も企業の危機管理に有効なサービスの提供に努めてまいります。



メーカーに広がる店舗販売データと地理空間情報の融合



パスコは、昨年の株式会社インテージ(市場調査コンサルティングの大手)との業務提携以来、両社の強みをいかしたエリアマーケティングサービスの販売力を強化、大手メーカー企業との契約など着実に実績をあげております。

地理空間情報国内最大手のパスコの「位置情報付と技術、地理空間情報の処理技術」と、マーケティングリサーチ国内最大手のインテージ社が保有する「付加価値の高いリサーチデータやそれに付随して作成した各種データ」を融合したエリアマーケティング用の分析レポートサービスの提供により、小売・サービス業のほか大手メーカー企業へもサービスを拡大しております。

倉庫内作業の効率化・生産性向上を支援

株式会社日通総合研究所と共同で開発した、倉庫内レイアウト効率化支援システム「LogisPICK's!」を今年10月から提供を開始いたしました。

通信販売会社など、大量の商品を扱い、さらに複雑な出荷工程を伴う業種では、倉庫内での出荷業務の効率化が大きな課題となっております。「LogisPICK's!」では、商品の位置と導線のシミュレーションを重ねること

で、数値的な判断基準による最適な配置や導線を検証できます。

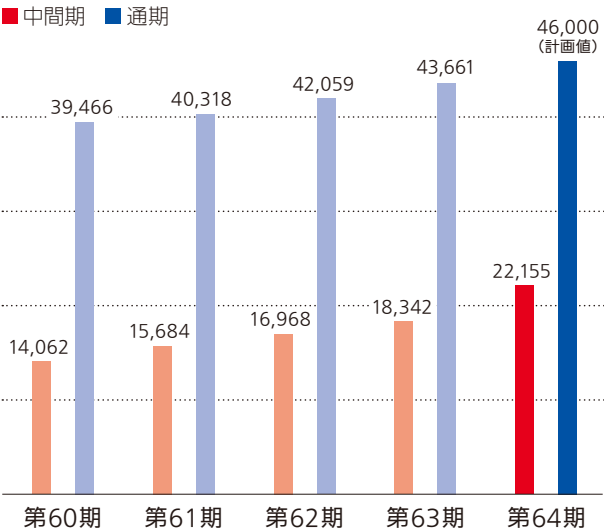
パスコは、輸配送や配送拠点の最適化に加え、倉庫内の最適化をも含めたロジスティクス・ソリューションを展開し、物流・流通業の効率化を支援してまいります。



財務ハイライト

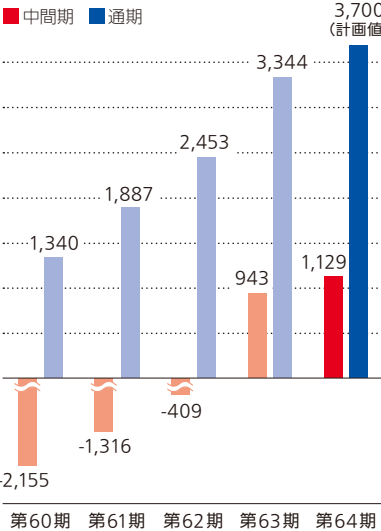
連結売上高

(単位: 百万円)



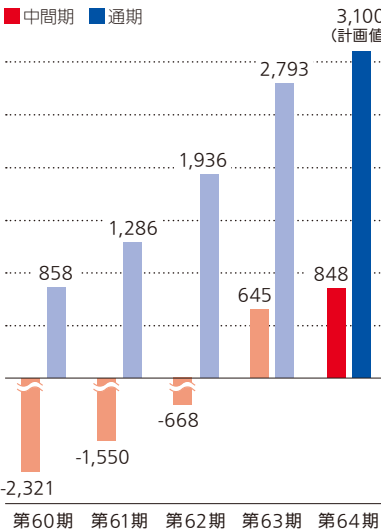
連結営業利益

(単位: 百万円)



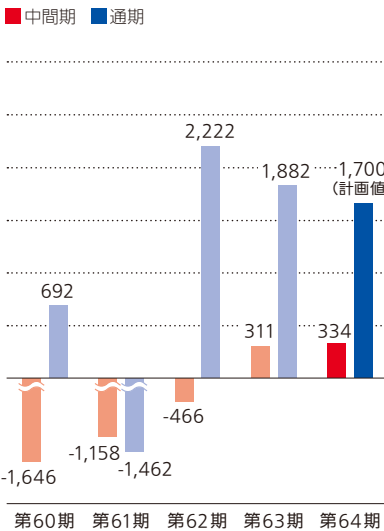
連結経常利益

(単位: 百万円)



連結当期純利益

(単位: 百万円)



通期の業績予想

通期の業績につきましては、売上高46,000百万円、営業利益3,700百万円、経常利益3,100百万円と増収増益を計画しております。

なお、当社は税務上の繰越欠損金を解消し、法人税の納付が発生しており、当期純利益は法人税等の増加を見込み、前期を下回る見通しです。

事業形態の特徴

当社グループ売上げの70%以上を占める公共事業は、国や地方自治体などの単年度予算の影響を受けて、納期が年度末に集中するため、売上げは下半期に偏り、期末に向けて収益が改善する傾向があります。

財務諸表

連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科目	当四半期 2011年9月30日現在	前四半期 2010年9月30日現在	前 期 2011年3月31日現在
資産の部			
流動資産	30,720	24,734	37,442
固定資産	20,056	17,306	19,343
資産合計	50,776	42,040	56,786
負債の部			
流動負債	19,144	11,856	24,872
固定負債	19,865	19,801	19,924
負債合計	39,009	31,657	44,796
純資産の部			
株主資本	11,669	10,350	11,917
その他の包括利益累計額合計	△314	△427	△418
少数株主持分	411	459	490
純資産合計	11,766	10,382	11,990
負債純資産合計	50,776	42,040	56,786

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科目	当四半期 2011年4月 1 日から 2011年9月30日まで	前四半期 2010年4月 1 日から 2010年9月30日まで	前 期 2010年4月 1 日から 2011年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,459	7,476	38
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,887	△1,731	△4,340
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,762	△ 9,357	1,622
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	△ 49	△ 75
現金及び現金同等物の増減額 (△減少)	814	△ 3,662	△ 2,756
現金及び現金同等物の期首残高	7,646	10,402	10,402
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,460	6,739	7,646

連結損益計算書

(単位: 百万円)

科目	当四半期 2011年4月 1 日から 2011年9月30日まで	前四半期 2010年4月 1 日から 2010年9月30日まで	前 期 2010年4月 1 日から 2011年3月31日まで
売上高	22,155	18,342	43,661
売上原価	16,772	13,619	32,168
売上総利益	5,383	4,722	11,492
販売費及び一般管理費	4,253	3,779	8,147
営業利益	1,129	943	3,344
営業外収益	157	162	266
営業外費用	438	460	818
経常利益	848	645	2,793
特別利益	0	65	55
特別損失	18	75	516
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	830	635	2,332
法人税、住民税及び事業税	530	90	360
法人税等調整額	89	291	102
少数株主利益 (損失△)	△123	△58	△13
四半期 (当期) 純利益	334	311	1,882

連結貸借対照表

流動資産の増加は、増収による売掛金増加、流動負債の増加は、増収のなか設備投資用資金や買収資金の調達によるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書

新規の設備投資に充てる資金需要も旺盛で借入金増加が続いております。

会社の状況

(2011年9月30日現在)

会社概要

会社名	株式会社パスコ
証券コード	9232
住所	東京都目黒区東山1-1-2
設立	1949年7月15日
資本金	8,758,481,700円
事業内容	人工衛星、航空機、車両等を使って国内外の地理空間情報を収集し、お客様の使用目的に合わせて加工・処理し、さらに必要な情報を付加した地理空間情報サービスを提供する。

役員

代表取締役社長	杉本陽一
取締役	岩松俊男
取締役	植本輝紀
取締役	岩館隆
取締役	納宏
取締役	安住修二
取締役	笹川正
取締役	西本利幸
取締役	島村秀樹
取締役	伊東秀夫
常勤監査役	荒田直行
監査役※	吉村皎三
監査役※	加藤幸司

※は社外監査役

株式データ

発行可能株式総数	200,030,995株
発行済株式の総数	73,851,334株
株主数	9,925名

大株主	持株数(千株)	出資比率(%)
セコム株式会社	51,584	69.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,298	3.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,467	1.98
株式会社東京放送ホールディングス	750	1.01
三菱電機株式会社	557	0.75
パスコ社員持株会	464	0.63
三菱UFJ信託銀行株式会社	451	0.61

注) 持株数は千株未満切り捨て、出資比率は小数点第3位以下切り捨て。
当社は自己株式1,439千株を保有しています。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金配当の基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 0120-232-711 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。 (ホームページアドレス http://www.pasco.co.jp) ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告 によることができないときは、東京都において発行する 日本経済新聞に掲載します。

表紙画像について：古宇利島^{こくりじま}はパスコの人工衛星地球局(送受信局)がある沖縄本島の北部に位置する周囲8kmの島です。
古くからの沖縄民家とサトウキビ畑が広がり、自然と人が調和した美しい島です。

株式会社パスコ

本社 〒153-0043 東京都目黒区東山1-1-2
電話 03-5722-7600 ホームページ <http://www.pasco.co.jp>

